

インターバンクの声（2014年9月26日）

昨夜のニューヨーク市場では、米新規失業保険申請件数がほぼ事前の予想通りやや改善。8月の米耐久財受注の下落率が大幅だったが、悪化すること自体への備えもあってこの時点での為替市場に大きな変化はなかった。相場に変化が見え始めたのが、それから一時間ほど経った日本時間の午後10時半頃。ちょうど時間が重なったのだろうが、米10年国債利回りの低下が目立ち始めたことと9月マークイット米国サービス業PMIが予想を下回る数字となった後にドルが下落し始まった。特に円相場は109円30銭前後でドルの上値を試しそうな気配すら感じられた中で、一気に80銭ほども下落してしまった。これで週末に期限が来るオプションは、俄然下値サイド108円50銭以下のストライクを付ける可能性が高くなってしまった。個人投資家もファンド勢も押し目のドル買いを待っている人が多いとの声を信じれば、このレベルならそろそろ買いの動きが見えて来ても良い頃だが、金曜日とあって勝負に出てくる人がどれだけいるのか判断に迷うところだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。